

精度管理アンケート

精度管理事業部事務局員：杉山 宗平
(安城更生病院：TEL:0566-75-2111)

I. はじめに

本年度の精度管理調査は日本臨床衛生検査技師会精度管理事業・データ標準化事業システム(JAMTQC)を利用し、昨年度と同時期に同様の内容で実施した。

また、精度管理調査と同時にアンケート調査を実施し、参加施設から貴重な意見を頂いた。次年度以降の精度管理事業展開へ反映させるべく、以下にその集計結果を示す。

なお、ご意見・ご要望等にて重複した内容については割愛させて頂いた。

II. 対象項目

精度管理試料送付時にアンケート用紙を同梱し、回答を求めた。また、部門別アンケートについてはJAMTQC内にてアンケート設問を設定し、回答を求めた。

【アンケート内容】

1. 技師長クラスの方

本精度管理調査の参加費の妥当性、日臨技精度保証施設認証制度、総括統計表、JAMTQC、事業全般に対する意見や要望を調査した。

2. サンプルサーベイ部門

項目数、試料の量に関する調査を行った(2題)。

3. フォトサーベイ部門

設問量、難易度、設問内容に関する調査を行った(3題)。

4. 評価対象外設問を出題した部門

設問量、難易度、設問内容、評価対象外設問の必要性に関する調査を行った(4題)。

5. JAMTQCシステムについて

使用方法、操作性について昨年と比較しての感想についての調査を行った(3題)。

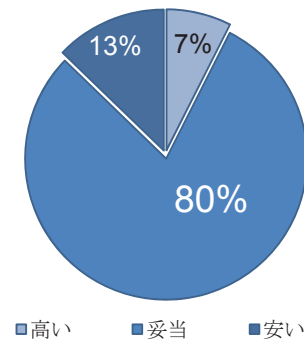
III. 参加施設

アンケート調査は平成27年度愛知県臨床検査精度管理調査に参加した94施設を対象とした。

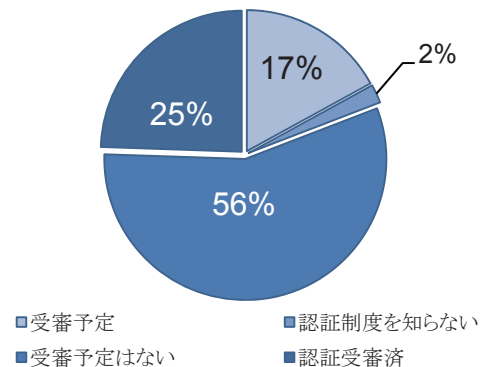
IV. 調査結果

1. 愛知県臨床検査精度管理全般

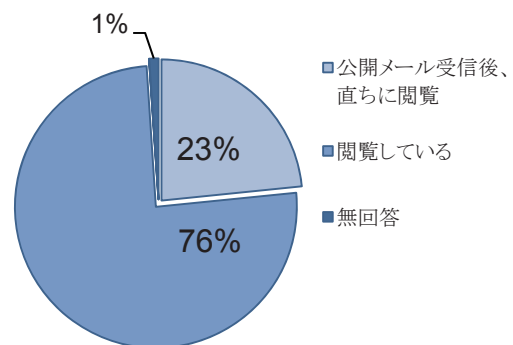
1) 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性について



2) 日臨技精度保証施設認証制度について



3) 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表について



4) JAMTQCに関する要望・意見について

- ・検体量を多くしてほしい。
- ・メーカー間差の大きいものは、サーベイにおいて参加

施設数により、評価にバイアスがかかる。

- ・メールでの連絡は大変便利ですが、日臨技サーベイのように、県サーベイでもログイン後、‘お知らせ’の画面があるとよい。
- ・アマゾンで買い物する→素人でも直感的に操作できる
- ・JAMTQCで参加、到着確認-入口…あんまり直感的ではないと感じる。
- ・日臨技と同じなので操作に慣れてきた。
- ・多くの施設が参加されるQCとなることを願っている。

5) 精度管理事業全般に関する要望・意見について

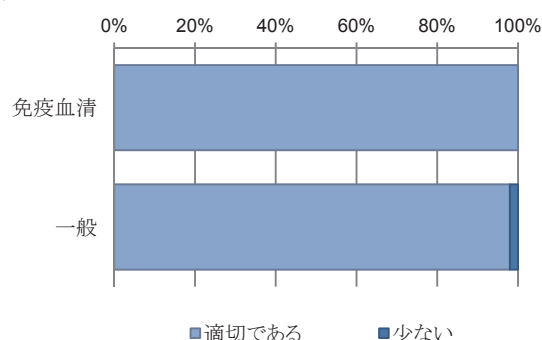
- ・精度管理試料の到着日を月曜日以外にしてほしい。
- ・検体送付曜日を指定できるとありがたい。
- ・医師会などの精度管理事業と時期が近く、もう少し期間を変更したらどうか。
- ・このアンケートもWeb化できないだろうか。郵送代や集計など効率化できるのでは。

→要望していますが、H&T社から不可能である返事をいただいています。

- ・以前のようにUSBによる回答が選択できればありがたい。(ネット環境が悪く、長い時間を要し、職員の負担が大きいため)
- ・標準化の進んでいない項目の施設間差について、臨床現場から質問を受けることがあり、差が大きいと他施設での治療状態が把握できないとの意見がある。
- ・細菌検査も日臨技塗抹及びフォトサーベイ同様参加できるよう願う。
- ・患者検体と同様に測定することが望ましいのでOne Testingを広く啓蒙して頂きたい。
- ・評価一覧表については是非発行し続けてほしい。これがないと参加費の妥当性は『高い』になる。
- ・愛臨技精度管理事業部からのお知らせ(2015年8月17日付)をメール配信して頂けるので周知に役立っている。
- ・評価の低い施設に指導を行い、全体的にレベルアップする姿勢が素晴らしい。
- ・クオリティーが高くなっている。
- ・愛知県ならではの企画となるとよい。
- ・精度管理事業に携わる役員の労苦に感謝します。

2. サンプルサーベイ部門

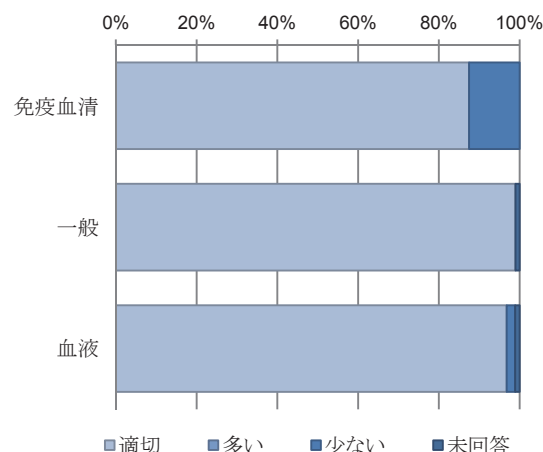
1) 測定項目数について



	適切	多い	少ない	未回答
免疫血清	100.0	0.0	0.0	0.0
一般	98.0	2.0	0.0	0.0

内訳(%)

2) 試料の量について

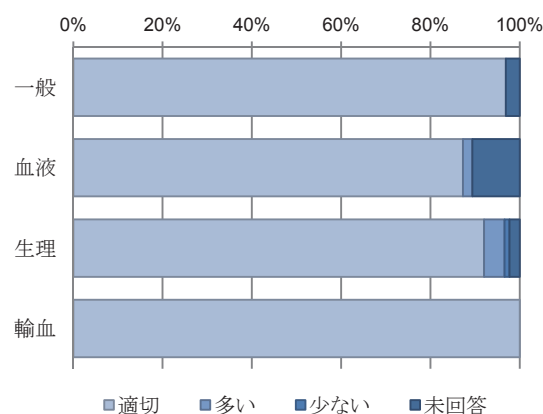


	適切	多い	少ない	未回答
免疫血清	87.5	0.0	12.5	0.0
一般	99.0	0.0	0.0	1.0
血液	96.8	0.0	2.1	1.1

内訳(%)

3. フォトサーベイ部門

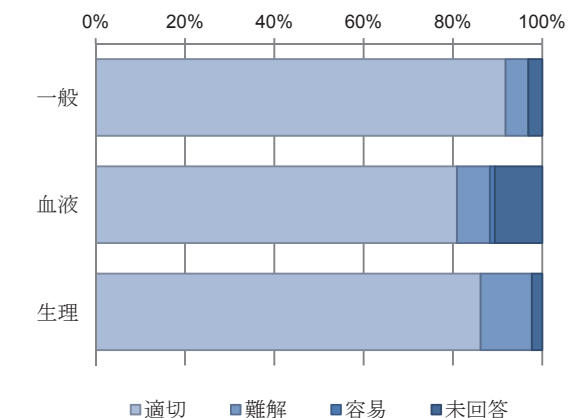
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
一般	96.9	0.0	0.0	3.1
血液	87.2	2.1	0.0	10.6
生理	92.0	4.6	1.1	2.3
輸血	100.0	0.0	0.0	0.0

内訳(%)

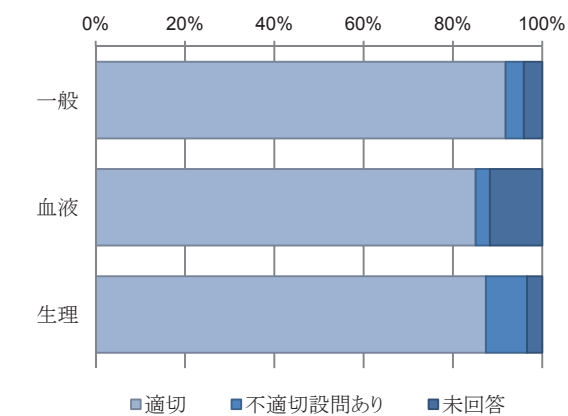
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
一般	91.8	5.1	0.0	3.1
血液	80.9	7.4	1.1	10.6
生理	86.2	11.5	0.0	2.3

内訳(%)

3) 設問の内容について

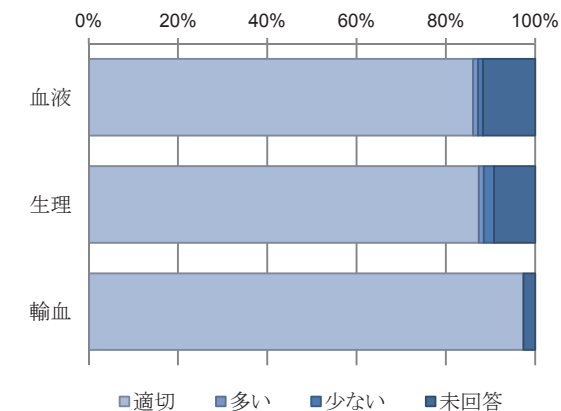


	適切	不適切設問あり	未回答
一般	91.8	4.1	4.1
血液	85.1	3.2	11.7
生理	87.4	9.2	3.4

内訳(%)

4. 評価対象外設問

1) 設問の量について

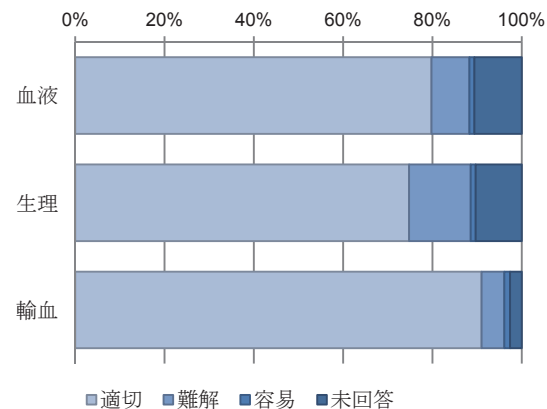


適切 多い 少ない 未回答

	適切	多い	少ない	未回答
血液	86.2	1.1	1.1	11.7
生理	87.4	1.1	2.3	9.2
輸血	97.4	0.0	0.0	2.6

内訳(%)

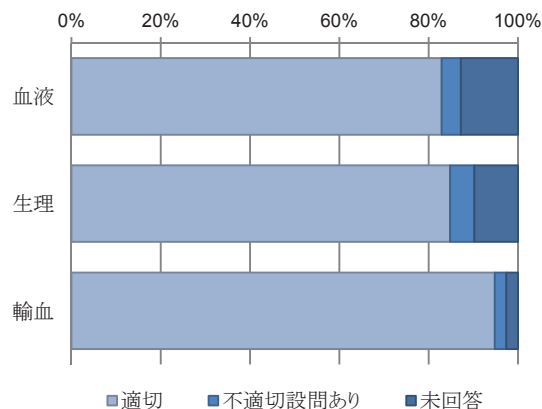
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
血液	79.8	8.5	1.1	10.6
生理	74.7	13.8	1.1	10.3
細胞	91.0	5.1	1.3	2.6

内訳(%)

3) 設問の内容について

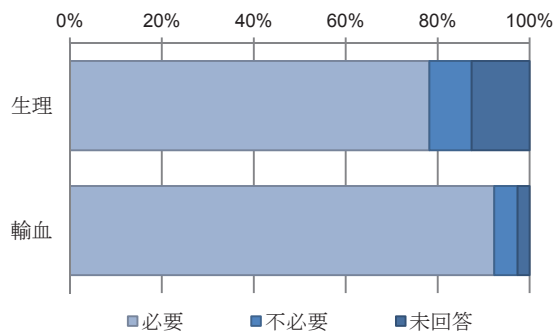


適切 不適切設問あり 未回答

	適切	不適切設問あり	未回答
血液	83.0	4.3	12.8
生理	89.3	5.7	10.3
細胞	94.9	2.6	2.6

内訳(%)

4) 評価対象外設問の必要性について

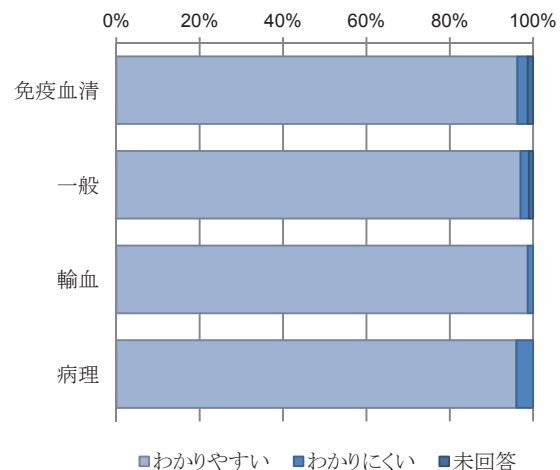


	必要である	不必要である	未回答
生理	78.2	9.2	12.6
輸血	92.3	5.1	2.6

内訳(%)

5. JAMTQCシステム

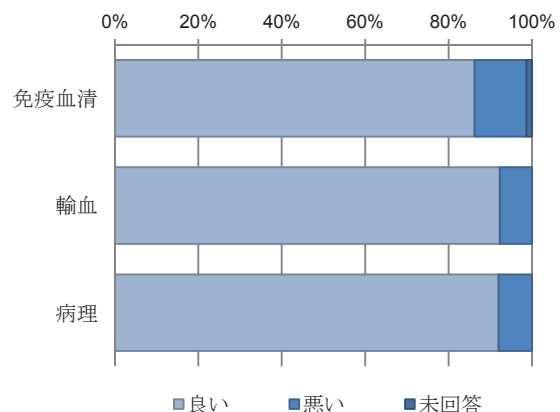
1) システムの使用方法について



	わかりやすい	わかりにくい	未回答
免疫血清	96.3	2.5	1.3
一般	96.9	2.0	1.0
輸血	98.7	1.3	0.0
病理	96.0	4.0	0.0

内訳(%)

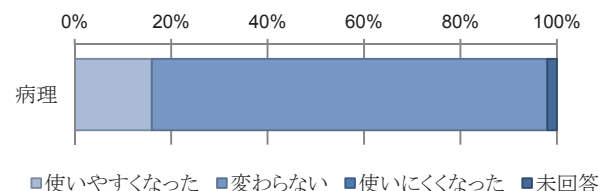
2) システムの操作性について



	良い	悪い	未回答
免疫血清	86.3	12.5	1.3
輸血	92.3	7.7	0.0
病理	92.0	8.0	0.0

内訳(%)

3) 昨年と比較した本年度システムの使いやすさ



	使いやすい	悪い	変わらない	無回答
病理	16.0	0.0	82.0	2.0

内訳(%)

V. 解説および考察

今年度も多忙の中、多くの参加施設に各種アンケートに協力して頂いた。今回実施したアンケートの集計結果から、以下の通り総括した。

1. 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性は、80%の施設が妥当、13%の施設が安い、7%の施設が高いと回答していた。精度管理事業部としては、参加費に見合う調査実施を今後も努めていきたい。

2. 日臨技精度保証施設認証制度は、17%の施設が受審予定、56%の施設が受審の予定はない、25%の施設が認証受審済み、2%の施設が認証制度を知らないと回答していた。精度が十分保証されていると施設を増やすため、受審施設の増加が次年度以降の課題であると考え。

3. 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表は、99%の施設が公開メール受信後、直ちに閲覧、または、閲覧していると回答しており、1%の施設が初参加のため無回答であった。次年度以降も公開メール配信を継続して、周知を徹底していきたい。

4. サンプルサーベイ部門では、測定項目数、試料の量についてアンケートを実施した。

1) 測定項目数について

98%以上が適切と回答しており、一般部門の2%が多いと回答していた。

2) 試料の量について

免疫血清部門で12.5%の施設が少ないと回答したが、他部門の96.8%以上の施設が適切と回答していた。昨年と同様、免疫血清部門で試料の量が少ないと回答した施

設が認められた。

5. フォトサーベイ部門では、設問の量、設問の難易度、設問の内容についてアンケートを実施した。

1) 設問の量について

血液、生理部門で87.2%以上、他部門の96.9%以上の施設が適切と回答があったが、生理部門の4.6%の施設は多いと回答していた。昨年度、生理部門で多いと回答した施設は13%であったため、改善が認められた。

2) 設問の難易度について

生理部門は11.5%の施設が難解と回答していたが、他部門は80%以上が適切と回答していた。昨年度、生理部門で難解と回答した施設は26%であったため、改善が認められた。

3) 設問の内容について

生理部門は9.2%の施設が不適切だと感じた項目があると回答していたが、他部門は85.1%以上が適切と回答していた。昨年度、生理部門で不適切だと感じた項目があると回答した施設は21%であったため、改善が認められた。

6. 評価対象外設問では、設問の量、設問の難易度、設問の内容、評価対象外設問の必要性についてアンケートを実施した。

1) 設問の量について

血液、生理、輸血部門の86.2%以上の施設が適切と回答していた。

2) 設問の難易度について

血液、生理、輸血部門の74.7%以上の施設が適切と回答し、生理部門の13.8%の施設は難解であったと回答していた。

3) 設問の内容について

血液、生理、輸血部門の83%以上の施設が適切と回答していた。

4) 評価対象外設問の必要性について

生理部門の78.2%、輸血部門92.3%の施設が必要と回答し、生理部門の9.2%の施設は不必要であると回答していた。

7. JAMTQCシステムでは、システムの使用方法、操作性、昨年と比較した本年度システムの使いやすさについてアンケートを実施した。

1) システムの使用方法について

全部門の96%以上の施設でわかりやすかったと回答していた。

2) システムの操作性について

全部門の86.3%以上の施設で操作性は良いと回答があったが、免疫血清部門の12.5%、輸血部門の7.7%、病理部門の8%の施設は、操作性は悪いと回答していた。

3) 昨年と比較した本年度システムの使いやすさ

病理部門の82%の施設が変わらないと回答しており、

悪いと回答した施設はなかった。

Ⅵ. まとめ

JAMTQCシステムへの移行後3年目になり、システム運用に関しては多くの施設に受け入れられてきたと思われる。アンケート調査に関しても可能な限りシステムに移行し、統一した集計が出来る様に努めていきたい。

アンケート調査でいただいたご意見は、真摯に受け止め、来年度の検討課題とし、より使いやすいシステムの構築に部員全員で取り組んでいきたいと考えている。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

Ⅶ. 実務担当者

精度管理事業部長：

○鈴木 博子（春日井市民病院）

精度管理事業部事務局員：

○佐野 俊一（愛知医科大学メディカルクリニック）

○寺田 達夫（愛知医科大学メディカルクリニック）

○平田 弘美（増子記念病院）

○蜂須賀靖宏（安城更生病院）